

献血に関する県民意識調査結果の概要について

この献血に関する県民意識調査は、緊急雇用創出事業を活用し、岡山県が岡山県赤十字血液センターに委託して実施したものである。

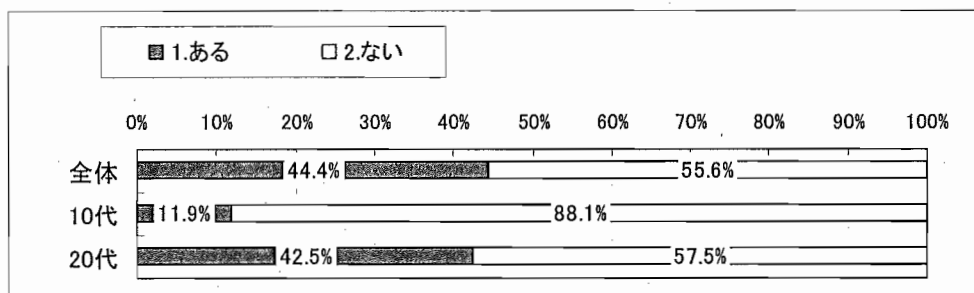
1 調査方法

- (1) 調査形式 調査員による聞き取り形式及びWEB調査
- (2) 調査場所 岡山県内の市街地、ショッピングモール、大学等
- (3) 調査対象 岡山県在住の16歳以上の県民
- (4) 回答者数 10,366人
- (5) 調査期間 平成21年8月17日～平成22年3月31日

2. 調査結果（抜粋）

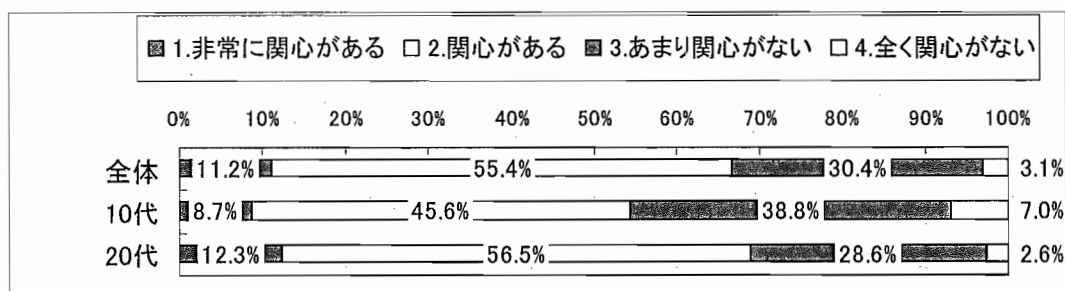
〔献血の経験〕

献血経験のある人とない人の割合は概ね半々で、年代が高くなるにつれて経験者の割合が高くなっているが若年層は10代で11.9%、20代で42.5%と、40歳以上の70%以上を大きく下回っている。



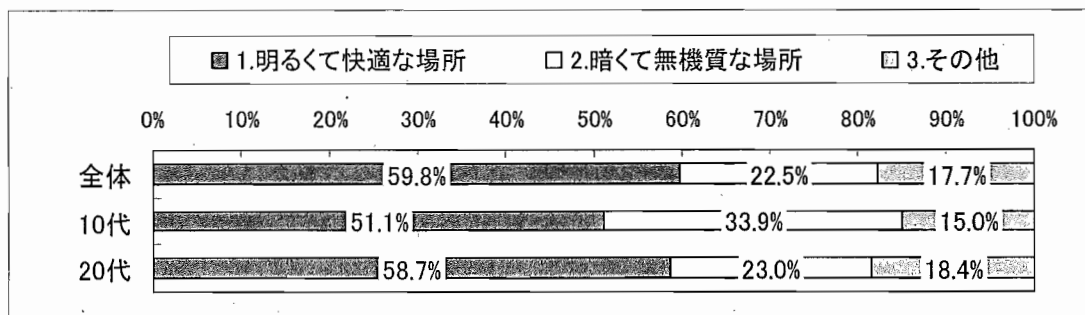
〔献血に対する関心〕

「非常に関心がある」と「関心がある」を合わせると、66.6%が関心を持っているが、「余り関心がない」と「全く関心がない」を合わせると、33.5%が関心がない。



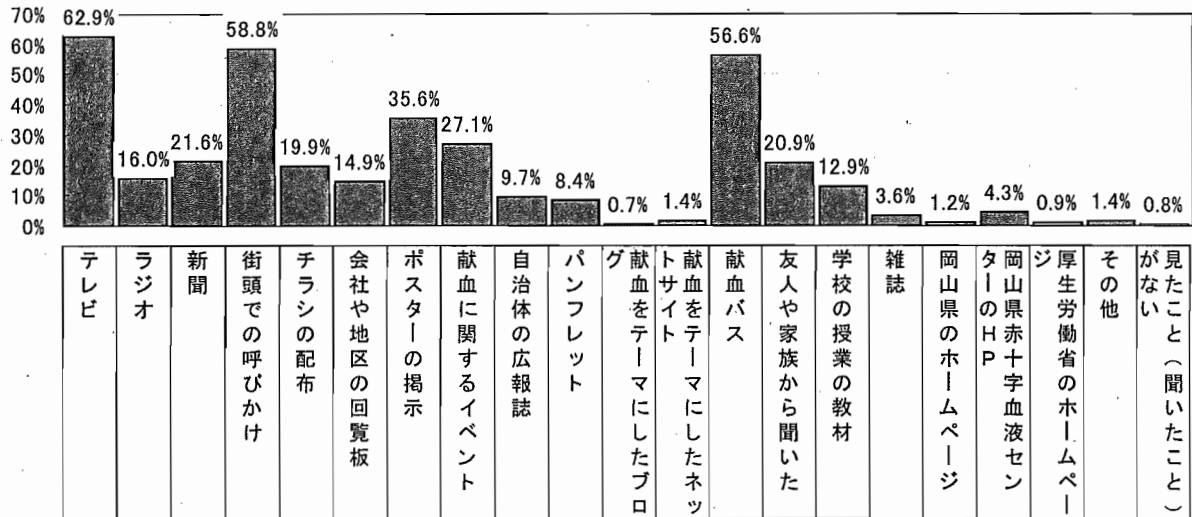
〔献血ルームや献血バス等献血会場に対するイメージ〕

献血ルームや献血バス等献血会場のイメージは、59.8%の人が「明るくて快適な場所」と回答しているが、反面、22.5%の人は、「暗くて無機質な場所」と回答している。



〔献血に関する広報媒体等〕

見たこと（聞いたこと）のある広報媒体としては、テレビや街頭での呼びかけ、ポスターの掲示などが挙げられている。特に若年層は、これらに加え、チラシの配布や献血バスを目にすることなどの回答も多く、これらを使った積極的な広報活動についても検討する必要がある。



〔献血未経験者の献血へのきっかけ〕

今後どのようなきっかけがあれば献血するかについては、「近くに献血する場所・機会が増えれば」、「献血しているところが入りやすい雰囲気になれば」など、献血機会や献血会場の雰囲気に関するものが上位を占めており、献血機会の広報の再検討や献血会場の雰囲気づくりの改善により、対応は可能と考えられる。

